

ぼくのわくわく

一宮東部小・5 加藤 聖大

「うまいじゃん。」

先生がぼくのことをほめてくれる

ぼくは、ほめられるのが大好きだ

ほめられると調子にのって、もっとがんばって、上手になりたいと思う

ぼくは四年生のときから、土曜教室のバレーを習っている

練習は月に二回しかない

だから、いつも練習がまち遠しくて仕方がない

バレーを習うきっかけは、友達にさそわれたことだ

ぼくはあまり乗り気じゃなかったけれど、お母さんから

「バレーで体力がつくだろうし、まずは体験から行ってみたら。」

と言われ、その言葉におされてとりあえず行ってみた

体験当日、バレーの練習をずっと思っていたぼくはひょうしぬけした

なぜなら、始まったのが「だるまさんが転んだ」だったからだ

先生が

「これは遊びではなく、練習だ！」

と言ったけれど、ぼくの頭ははてなだらけだ

「す早く動いて、止まることが大切だ。」

と言われて、ようやくなつ得した

遊びを交えながら、バレーを教えてくれる先生のやり方がとても楽しくて、おもしろくて、ぼくはどんどんバレーが好きになった

「おはようございます！」

今日は待ちに待った土曜教室の日

あいさつは先手必勝だ

ランニングはきついけれど、ぼくは走るのが好きだから、にこにこだ

いよいよボールを使った練習が始まる

かん单そうに見えるけれど、打つ力かげん、打つ方向が難しくて、何回やってもボール

はどこかへ行ってしまうくやしい

次こそは、成功させてやるぞ

「こい！」

大きな声を出して構える

次のしゅん間、ボールは先生のところに返っていた

きん張がとけてほっとする

こつは、ボールがどこに飛んできても、自分のむねの前で受け止めることだ

何度も何度も練習して、上手くなってきた

今日は試合形式での練習がある

わくわくしながらコートに立つ

でも、てきのチームがどんどん点を取っていき、ぼくたちのチームは負けそうだ

その時

ぼくのところへボールが飛んできたおどろいて、手も足も動かず固まってしま

う

「大丈夫！次がある！」

先生の大声が飛んでくる

味方のチームの子ががんばってくれて、逆

転に成功

でもぼくは、まだボールにふれていない

そのとき

またぼくのところにボールが飛んできた

「今だ！」

ボールは上に上がり、そのままきチームのコートへ

できた

心はずんで思わず笑顔になる

バレーは、ぼくにいろいろなことを教えてくれる

ちよう戦する前から、あきらめてはいけないこと

目標を達成するためには、努力が大切なこと

できることが増えるのは、とてもうれしい

ぼくはバレーが大好きだ

これから練習がんばるぞ！